

令和5年度 とまりの保育園 自己評価表

評価実施日: 令和6年3月26日

記載者: 田中美幸

評価については、A:達成できた B:ほぼ達成できた C:一部改善を要する D:改善を要する の4段階で評価する

No	評価項目	評価		自己評価内容
		9月	3月	
① 園の組織と運営に関すること				
1	職員の共通理解のもと、自園の保育課題を明確にし、児童・保護者・地域の実態や実情に応じた適切な保育目標となっているか	C	B	職員によって、保育スキルの差やチームワークなど、まだまだ改善点があり、年度初めから中盤にかけては業務内容の見直し、改善を行った
2	明確な目標を持って職員会議が運営され、職員が共通理解のもと、機能的に、組織・運営がなされているか	A	A	定例会議や必要に応じた小会議を通して、現状の課題の共有や、共通理解を図る取り組みを設け、目標設定等の共有を図るよう心がけた
3	事故等緊急事態に対する安全対策及び、対応マニュアルの整備がなされているか	A	A	防災マニュアルの改善を図った。新たな課題や取り組みが必要な内容を常にリニューアルしている。
4	保育目標や方法等を共通理解し、組織的な園内研究の促進に努めているか	C	B	会議や研修を通して、共通理解に努め、クラス会議でさらに共通理解を深めるよう努めたが、クラスによって差があったため、職員の指導を徹底した
② 保育内容とその展開に関すること				
1	各年齢の重点目標を明確にし、具体化した保育課程の構成・実施がなされているか	B	B	年齢ごとの保育課程の構成・実施がなされている
2	現代の保育課程を見通した道徳性の芽生えを培う保育や、乳幼児期にふさわしい知的発達等を促す教育が推進されているか	B	B	園児との日々の生活の中で、その都度、見直しを図り、一人ひとりに合った保育を行えるよう、スキルアップを図りながら対応した
3	乳幼児の実態や育ちをとらえ、ねらいや内容を設定し、計画的に実践しているか	A	A	年案、月案個別支援計画、週案、日案にそって実施している
4	一人ひとりの乳幼児の心に寄り添い、良さを認め、伸ばすきめ細やかな指導に努めているか	A	A	援助の仕方について、日々の保育やケース会議等を話し合っており、常に改善中
5	乳幼児にとって主体的な生活態度や創造的な思考を促すような、魅力ある環境整備がなされているか	A	A	子どもたちが主体的に活動できるよう、定期的に環境を見直し、発達等に応じて環境整備を行った
③ 健康管理・食事に関すること				
1	登園時や保育中の子どもの健康管理は、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施しているか	A	A	コロナ時から継続した健康管理の強化と保護者との情報共有に力をいれ、実施した
2	健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させているか	A	A	診断結果の伝達ができ、保育にも反映されている
3	感染症の対応については、発生の状況を必要に応じて保護者、全職員に連絡しているか	A	A	発生時には、情報掲示や連絡帳での情報提供、玄関先での情報掲示、口頭や資料を活用し、保護者・全職員に連絡している
4	アレルギー疾患を持つ子供の状況に応じて、適切な対応を行っているか	A	A	体調変化によってアレルギー児の状況が変わったため、保護者と連携を密に図った。成長に合わせて定期検査の内容や指導方法の確認を行った。
5	子供が食事を楽しむことができるように工夫をしているか	A	A	個人差や食欲、体調に応じて、量・材料・切り方等を工夫し、食べ方についても説明し、残さずよく噛んで食べることを伝えている

No	評価項目	評価		自己評価内容
		9月	3月	
④ 保育環境に関すること				
1	保育室等は、保育士の創意工夫を活かした環境整備が行われているか	A	A	保育に適した環境整備を行うとともに、危険防止にも注意をはらっている
2	乳幼児がイメージを広げ、刺激されるような素材や遊具等の環境が工夫され、活用できているか	A	A	遊具等の環境をより充実させるために、クラス会議で話し合いを行い、全体会議で話し合いを行い、工夫や改善している
3	職員が協力して、園内外の整備・管理に当たり、定期的に点検を行っているか	A	A	園内外の安全点検(週1回)、毎日の清掃時に目視で確認し、花壇の手入れ等を実践している
4	地域の自然環境や公共施設等を把握し、有効に活用しているか	B	B	感染対策防止等の観点で、戸外遊びが減少した。散歩などで地域の自然散策を実施した
5	長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮しているか	B	B	時間に応じた保育内容を計画し保育の提供を心掛け、少数の保育士で対応できるようにしている
6	障害児保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮しているか	A	A	発達に課題がある児の保育に対して、全職員で情報を共有し、児に応じた配慮を行った
⑤ 子育て支援に関すること				
1	一人ひとりの保護者と、日常的な情報交換に加え、個人面談等を行っている	A	A	妊娠中の保護者、長時間労働の保護者、外国籍の保護者など、世帯に応じた支援の対応した
2	家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されているか	B	B	必要に応じて、記録している
⑥ 家庭や地域との連携に関すること				
1	他保育施設等と定期的な交流や、保育内容や乳幼児等の理解を行っているか	C	C	コロナ禍から、他施設との直接的な交流は減ったが、情報共有等で交流を実施した。
2	保護者や地域の意見を取り入れ、保育活動に生かしているか	B	B	日頃から情報収集を図り、要望のヒヤリングを行い反映に努めている
3	保護者や地域住民の理解や協力を得て、開かれた保育園づくりを行っているか	A	A	保護者への日々の保育内容を写真付きで情報提供を行い、保育内容を知ってもらう機会を構築している。
⑦ 安全確保への取り組みに関すること				
1	あらゆる場面を想定しての危機管理体制の共通理解が図られているか	A	A	防災マニュアルの改訂を行い、再度危機管理体制の見直しと共有を図ることができた。
2	外部からの侵入に対する対応策がとられているか	A	A	入口の施錠や、防犯カメラの設置を行い、外部からの侵入防止に努めているが、侵入された際の対応策として避難訓練の中で実施している。
3	警察等との連携を図り、地域パトロールや情報交換の協力をお願いしているか	A	A	警察が発信する、最新の事件事故の情報提供の登録を行い、日々情報をえているが、必要に応じて警察の巡回を依頼しなければならない
⑧ 総評				
<p>コロナが収束したが、継続して丁寧な感染症対策や健康管理を行い、安全に保育ができる環境整備を心がけた。在園児の多国籍化に伴う給食提供方法の多様化、アレルギー児増による除去食対応、神経発達症疑いによる要支援児増など、子どもたち一人ひとりに寄り添った保育を提供するために、職員間での情報共有方法として、個別支援計画の項目の見直しを図り、全職員が、園児の発育や発達・園での関わり方に対して見える化を図れるように改善を行った。今後の課題として、質の高い保育を目指す際に、保育士の業務的負担増にならないよう、職員間で分担できる作業を見直し、組織として明確な目標を掲げ、フォローアップの体制を強化し、本園の理念である「子どもが笑顔、保護者が笑顔、保育者も笑顔の保育園」づくりを実践したい。</p>				